

機関番号：26401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2010

課題番号：20592509

研究課題名(和文) 潜在看護師のフィジカルアセスメント能力を強化するための
教育用マニュアルの開発研究課題名(英文) Development of an Educational Manual for Nurses Wishing to Return
to Work to Enhance Their Physical Assessment Skills

研究代表者

瓜生 浩子 (URYU HIROKO)

高知女子大学・看護学部・講師

研究者番号：00364133

研究成果の概要(和文)：フィジカルアセスメントに関する既存の書籍と視聴覚教材を分類し、現役看護師より得た意見と再就業経験のある看護師より得た情報を分析した結果、再就業を目指す潜在看護師へのフィジカルアセスメント教育では、気になる症状や情報を手がかりにして推論を立てながら観察や判断を進めていく力を強化する必要があると考えた。それを踏まえ、重篤な状態の可能性のある病態や症状を取り上げ、観察と判断のポイントをまとめ、さらに基本的な観察技法を解説した、ポケットサイズの教育用マニュアル案を作成した。

研究成果の概要(英文)：Existing books and audiovisual materials about the physical assessment were classified, and views of currently employed nurses and information from nurses who experienced an episode of reemployment were analyzed. It suggests the need for a physical assessment education program for nurses who wish to return to work. Nurses seeking reemployment should enhance their observation and judgment skills for relevant patient symptoms and other clinical information. Given this need, a draft of a pocket-size educational manual was developed that focuses on serious pathological conditions and symptoms, and includes basic methods of observation as well as summaries of observation and clinical judgment points.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
年度			
年度			
総計	3,600,000	1,080,000	4,680,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：フィジカルアセスメント, 潜在看護師, 再就業, 看護技術

1. 研究開始当初の背景

高度化する医療現場において安全で質の高いチーム医療を提供するためには、看護マンパワーの安定的な確保が不可欠であり、看

護職員の離職防止と潜在看護職員の再就業支援は社会的課題となっている。2006年の調査では、潜在看護職員の77.6%が再就業を希望しており、その多くは20代後半から30代、

平均実務年数は10年前後、離職期間は3~4年と、中堅といわれる時期に離職した看護職員が多いことが明らかになっている(日本看護協会;2008, 廣瀬;2007, 橋;2006)。しかし、豊富な実務経験を持ちながらも、自らの知識や技術に不安を抱いていることも示唆されている(日本看護協会;2008, 廣瀬;2007, 栗原;2006)。

一方、医療現場では医療依存度の高い患者が増加し、看護の専門性が見直される中で、一定の診察技術を用いた身体査定により異常をもれなく早期に発見するフィジカルアセスメントが、看護者にも求められるようになってきた。しかし、基礎教育でフィジカルアセスメントの教育を受けていない看護者が多いことや、学習していても自信がなく実践に十分活用できていないという報告(長野ら;2002)もあり、効果的な教育方法の開発が課題となっている。

以上のことから、潜在看護師の再就業を支援するという社会的ニーズに応えるためには、潜在看護師側のニーズに即した教育支援が不可欠であり、また臨床側のニーズをも視野に入れてアドバンスのフィジカルアセスメント能力の強化を目的とした教育が重要と考えられた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、再就業を目指す潜在看護師のフィジカルアセスメント能力を強化するための教育用マニュアルを開発することである。

3. 研究の方法

(1) 研究のステップ

本研究は、次の4つのステップを踏んだ。
①再就業を目指す潜在看護師へのフィジカルアセスメント教育として押さえるべき内容の抽出

フィジカルアセスメント技術に関する書籍・視聴覚教材(VHS・DVD)から、取り上げられている内容や技術、構成等を抽出し分類した。また、重要と思われる疾患や症状を同定し、観察およびアセスメントのポイントをリストアップした。

②再就業を目指す潜在看護師のフィジカルアセスメント能力について強化が必要な部分や課題の明確化

自らのフィジカルアセスメント能力に課題を感じたり、フィジカルアセスメントに対する学習意欲の高い現役の看護師から、フィジカルアセスメントに関する課題や苦手な部分についての意見を集約した。また、再就

業経験のある看護師から、再就業直後の状況や業務上困難を感じた事柄について情報を得た。これらをまとめ、潜在看護師のフィジカルアセスメント能力について強化が必要な部分や課題を明確化した。

③再就業を目指す潜在看護師のフィジカルアセスメント能力の弱点を補強する教育用マニュアル案の作成

ステップ①②の結果を踏まえ、研究メンバーで検討を重ねて、教育用マニュアル案を作成した。

④作成した教育用マニュアル案の評価と洗練化

看護職としての実務経験をもちながら離職後1年以上が経過している潜在看護師および再就職した看護師や新人看護師の指導にあたっている臨床看護師を対象にしたフォーカスグループインタビューをそれぞれ行い、ステップ③で作成した教育用マニュアル案の内容や構成、活用方法などについての意見を得る。その結果を踏まえ、マニュアルを洗練化することとした。

(2) 倫理的配慮

高知女子大学看護研究倫理審査委員会の審査を受け承認を得た。研究協力施設および対象者に対して、文書および口頭にて研究の主旨・方法、危害を加えられない権利、全面的な情報公開を受ける権利、自己決定の権利、プライバシーおよび匿名性が保護される権利について説明した上で、研究参加の意思を確認し、同意が得られた方のみを対象とした。

4. 研究成果

(1)再就業を目指す潜在看護師へのフィジカルアセスメント教育で重視・強化すべき事柄
①フィジカルアセスメント技術に関する書籍・視聴覚教材からの検討

フィジカルアセスメント技術に関する書籍24冊、視聴覚教材(VHS・DVD)15本の内容を確認し、構成と取り上げられている内容を分類した結果、表1のようになった。書籍の中には、複数の切口を採用した構成のものもあったが、約8割は系統別にまとめられていた。すべての書籍で観察方法や観察ポイントが説明されていたが、観察ポイントは疾患や症状ごとに整理されているものもあった。また、雑誌では、特定の疾患や症状に焦点を当て観察ポイントと方法をまとめたものを、何回かのシリーズで紹介しているものが多くみられた。

潜在看護師には臨床ですぐに活用できる知識と技術が求められることから、身体を系統的に観察するための基本的手技だけでな

く、疾患や症状からポイントを絞って観察を進めたり、観察結果を疾患や症状と関連づけてアセスメントしたりするための知識も必要であると考えられた。そこで、重要と思われる疾患や症状を呼吸器系・循環器系・脳神経系・消化器系を中心に同定し、観察とアセスメントのポイントをリストアップした。

<表 1 フィジカルアセスメント技術関連の書籍・視聴覚教材の分類>

	分類項目	書籍	視聴覚
構成	総論のみ	0	2
	系統別	19	13
	疾患・症状別	6	0
	対象別	4	0
	生活機能別	3	0
内容	総論(目的・基本技法)	19	2
	身体の構造・機能	14	11
	観察方法・ポイント	24	14
	異常所見からの予測	19	9
	事例を用いた解説	5	0
サイズ	B5判	21	
	A5判	2	
	ポケットサイズ	1	

②現役看護師より得た意見からの検討

研究代表者と研究分担者が講師または演習補助者として参加した臨床経験 1~3 年目の看護師を対象としたフィジカルアセスメントの 2 回の研修会について、参加者 103 名の意見や反応を集約した。

フィジカルアセスメントについて困っていることや課題に思っていることとして参加者から出された意見の概要を表 2 に示す。<表 2 現役看護師のフィジカルアセスメントに関する困難や課題>

項目	内容
知識不足	<ul style="list-style-type: none"> 知識が不足している 正確な判断をする上で今の知識で正しいのか自信がない 先輩たちが使っている単語が何を指しているかわからない
観察の難しさ	<ul style="list-style-type: none"> 呼吸音の減弱と正常の違いがわからない 肺雑音の種類がわからない 心音がわからない 普段業務の中で行う機会が多くないので、必要時にできるか自信がない
アセスメントの難しさ	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報をうまく整理、分析、解釈できない 得た情報から仮説を立ててアセスメントできない

	<ul style="list-style-type: none"> 病態が把握できていないのでうまくアセスメントできない トータルな考え方ができない アセスメントが広がらない
難しい状況や場面	<ul style="list-style-type: none"> 異常時の判断、対応 呼吸器使用時の観察、判断 どこが異常なのか、このまま放っておくとどうなっていくのかの予測と観察

自己の知識不足、観察・アセスメントに対する自信のなさ、得た情報から仮説や予測を立てたり異常時に適切に判断・対応する難しさが多く聞かれた。

このことから、フィジカルアセスメントの能力を高めるためには、観察や判断に必要な基本的知識を習得するとともに、気になる症状や情報からの推論の立て方やそれに基づく観察や判断の進め方について実践的に学ぶことが必要であると考えられた。

③再就業経験のある看護師より得た情報からの検討

再就業経験のある看護師 6 名を対象に、再就業直後の業務やサポートの状況、業務上困難を感じた事柄等について聞き取り調査を行った。その中で、困ったこととして出された意見は以下のようなものであった。

- 再就業後、短期間で夜勤に入ったり一人で検温に行ったりしなければならなかった(施設によっては 1 日目から一人で検温)
- 固定の指導者がおらず、困った時にすぐに相談しにくかった
- 最初から、経験があるのでできるだろうから好きにやってよいと放置された
- 患者の状態や既往歴を把握するのに時間がかかり、ケアをする際に困った

このことから、再就業した看護師は即戦力として期待されており、再就業後短期間のうちに一人での観察や判断を任される可能性があることがわかった。

④重視・強化すべき事柄の明確化

以上のことから、フィジカルアセスメントにおいては、得た情報から仮説や予測を立てながら観察を進めたり、異常時に適切に判断し対応することに難しさを感じる事が多く、また、再就業した看護師は再就業後短期間のうちに一人での観察や判断を任される可能性があることから、気になる症状や情報を手がかりにして、推論を立てながら観察や判断を進めていく力を強化する必要があると考えられた。

(2)再就業を目指す潜在看護師のフィジカルアセスメント能力の弱点を補強する教育用マニュアル案

(1)の結果を踏まえ、研究メンバーで教育用マニュアルの内容について検討を重ね、試案を作成した。

①教育用マニュアル案作成のポイント

気になる症状や情報を手がかりにして推論を立てながら観察や判断を進めていく力を強化するために、患者に何らかの異変がみられた時の観察と判断のポイントがわかるものを作成することにした。既存の書籍や視聴覚教材では系統別にまとめられているものが多いため、実践的な知識の習得を目指し、症状を軸にすることにした。

また、再就業後早期から一人で観察や判断を行わなければならないことを考慮し、再就業前の事前学習だけでなく、再就業後の実践場面でも活用できるようなものとするにしました。

マニュアル案には以下の特徴をもたせた。

- ・迅速かつ的確な観察・判断と初期対応が求められる場で活用できるように、重篤な状態の徴候の可能性のある病態や症状を取り上げた。
- ・患者の症状や訴えから必要な観察を順序よく進めることができるように、病態・症状ごとに観察ポイントとその結果からの予測を簡潔にまとめた。
- ・必要な基礎知識として、基本的な観察技法をイラストと解説入りでわかりやすくまとめた。
- ・ユニフォームのポケットに入れて携帯し、必要な場面ですぐに取り出して使えるように、A6判サイズで作成した。また、かさばらないように、内容を精選し 20 ページ程度の薄型のものにした。

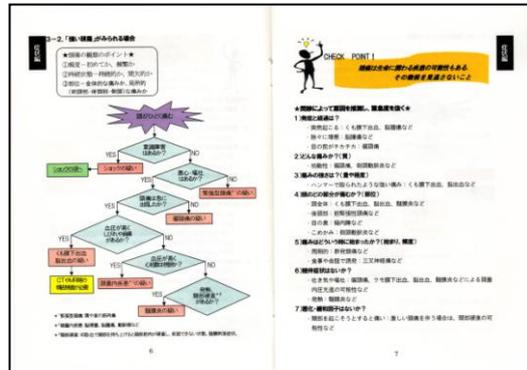
②教育用マニュアル案の内容と構成

教育用マニュアル案は「症状編」と「手技編」の2部構成で、21 ページからなる。

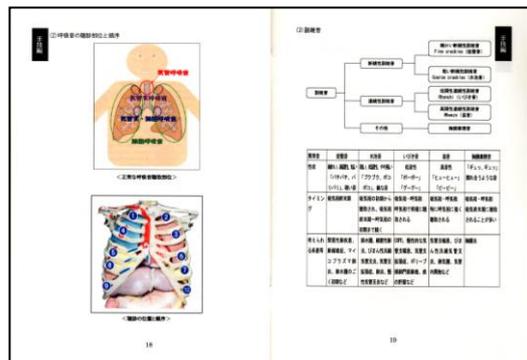


「症状編」では、緊急処置が必要あるいはその可能性のある重要な病態や症状として、

「ショック状態」と重篤な疾患の徴候の可能性のある「意識障害」「頭痛」「胸痛」「呼吸困難」「腹痛」を取り上げた。病態・症状ごとに、さらに何を観察すべきか、その結果からどのような状態が予測されるかをフローチャートで示し、観察ポイントも一目でわかるように簡潔にまとめた。



「手技編」では、「聴診のポイント」「意識状態のアセスメント」「呼吸のアセスメント」「循環のアセスメント」「腹部のアセスメント」の5項目について、観察のポイント、観察部位、評価スケールや正常・異常の判断基準、異常所見から予測されることなどを、イラストを交えながら簡潔かつわかりやすく示した。



③教育用マニュアル案の評価と洗練化

作成した教育用マニュアルの試案について意見を得るために、潜在看護師と、臨床で潜在看護師や新人看護師の指導にあたって

いる看護師を対象にしたフォーカスグループインタビューの開催準備を進めた。しかし、対象者探しや対象者の日程調整が難航しスケジュールが遅れたため、7月・8月に実施予定である。

研究依頼の際に医療施設の看護責任者からは、マニュアル案について以下のような意見が出された。

- ・もっと大きな字にしたほうがよい。
- ・利用者がそれぞれに必要な資料を追加していけるように、冊子ではなくファイル式にしてはどうか。
- ・再就業者だけでなく、一般の看護師も活用できるのではないか。

(3) 今後の展望と課題

今後、フォーカスグループインタビューを実施し、その結果を受けて教育用マニュアル案を修正する予定である。マニュアル案は事前に配布した上で意見を得るため、使用しての感想として評価を受けることはできるが、実際に使用し知識、技術、判断力などの面でのどのような効果が得られたかを量的に調査することも必要である。

また、教育用マニュアルの効果的な活用方法、すなわち、どのような時期からどのように使用するか、マニュアルを用いた自己学習をどのようにサポートするか、さらには、潜在看護師が本マニュアルにアクセスできる仕組みをどのようにつくっていくかなどについて検討していく必要があると考える。

引用・参考文献

- ・日本看護協会：潜在ならびに定年退職看護職員の就業に関する意向調査結果（速報），社団法人日本看護協会ニュースリリース，2007年3月26日号
- ・廣瀬佐和子：中堅ナースが働き続けられるための環境「潜在ならびに定年退職看護職員の就業に関する意向調査」より，看護，59(6)，38-41，2007
- ・橘達枝：未就業看護者の再就職に向けての意識調査，看護，66-73，58(15)，2006
- ・栗原良子：潜在看護職への職場復帰支援，看護展望，31(11)，67-71，2006
- ・田中幸子，小池智子，坂口千鶴他：潜在看護師の復職—その実態と支援 潜在看護職の復職をめぐる就労支援策の現状—再教育に焦点をあてて，看護展望，31(11)，54-61，2006
- ・芹澤貴子，中村美千子，由井尚美他：潜在看護師就労支援講習会による人材確保，看護管理，16(7)，512-517，2006

- ・鈴木俊子：潜在看護師の復帰支援プログラム，看護展望，31(11)，62-66，2006
- ・American Association of Colleges of Nursing: The Essentials of Baccalaureate Education for Professional Nursing Practice, AACN, 1998
- ・永野光子，服部恵子，山口瑞穂子他：フィジカルアセスメント教育に対する臨床看護婦・士の認識と要望，日本看護学教育学会第11回学術集会講演集，158，2002

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

瓜生 浩子 (URYU HIROKO)
高知女子大学・看護学部・講師
研究者番号：00364133

(2) 研究分担者

長戸 和子 (NAGATO KAZUKO)
高知女子大学・看護学部・教授
研究者番号：30210107

升田 茂章 (MASUDA SHIGEAKI)
高知女子大学・看護学部・助教
研究者番号：80453223

大川 宣容 (OKAWA NORIMI)
高知女子大学・看護学部・准教授
研究者番号：10244774
(H20~H21)

原田 千枝 (HARADA CHIE)
高知女子大学・看護学部・助教
研究者番号：00508583
(H20~H21)

井上 正隆 (INOUE MASATAKA)
高知女子大学・看護学部・助教
研究者番号：60405537
(H22)

坂元 綾 (SAKAMOTO AYA)
高知女子大学・看護学部・助教
研究者番号：90584342
(H22)

坂本 章子 (SAKAMOTO AKIKO)
高知女子大学・看護学部・助教
研究者番号：80553495
(H22)